



商店街でも仙台四郎を活用して仙台初売りの盛り上げを図っている。

仙台初売り豆知識① キャラクター

仙台四郎って誰なの？

仙台初売りのキャラクター「仙台四郎」は、仙台で商売繁盛の福の神とされている、江戸時代末期から明治にかけて実在した人物です。本名は芳賀四郎。いつもニコニコしながら街を歩き回り、四郎が立ち寄ったお店は、なぜか大入り満員になったと言われています。これが評判になり、花柳界や芝居小屋などで無料で飲食を振る舞われるなど大歓迎を受けた四郎でしたが、気に入らないお店には決して行かなかったそうです。

こうしたことから、仙台四郎は、写真やイラスト、人形など、さまざまな招福グッズに姿を変え、現在も仙台で定番の商売繁盛アイテムになっています。



藩政時代から 続く伝統行事 「仙台初売り」へ行くの！

仙台初売り豆知識②

どうして？・1月2日なの

仙台の風習として、年末に大掃除を済ませ、おせち料理を準備し、新年は家族揃って過ごすと言われてきました。さらには「元旦の掃除は福を掃きだし、買い物はお金を吐き出し、1年の浪費につながる」という言い伝えもあるのです。こうしたことから、業者、消費者の多くは元旦に「事」を始めることに抵抗感を抱いてきました。また、日本では、1月2日は「初夢」や「書き初め」など、「年始始め」の吉日とする考えがあります。仙台商人は、今年1年の変わらぬご愛顧と謝恩の心意気を持って、豪華な景品をつけ、1月2日に「仙台初売り」を実施してきたのです。



仙台初売り豆知識③

豪華景品が 有名な仙台初売り

毎年、茶箱をはじめとした豪華景品等を目当てに数日前からお店に並ぶ人までいる仙台初売り。こうした景品類、本来は国の取り決めで商品価格の10%まで（1万円の商品なら1000円相当まで）と上限が決められていたのですが、仙台では20%まで景品の提供が認められてきました。これは、仙台初売りが「歴史ある商習慣に基づくもの」という理由で、公正取引委員会から、正月三日、旧仙台藩地域に限り認められた特例なのです。仙台初売りは、国が認めるほど特別な初売りなんです。

近年は時代の流れと共に、「豪華景品」から、「割増商品券」や「福袋」が主流になってきていますが、仙台初売りならではのお得感は健在。街は何個も福袋を抱えた買い物客でにぎわっています。



売値以上の商品が入ったお得な福袋を求めて多くの買い物客が訪れる(平成29年1月2日、藤崎百貨店)。



縁起記念品取扱店は このポスターが目印

仙台初売りで縁起記念品をゲットしよう！

『「仙台初売り」をよりよくする検討会』では、今年も、仙台四郎をキャラクターとした縁起記念品(特製ミニタオルハンカチ)をご用意しました。縁起記念品をプレゼントしている取扱店一覧は、12月26日発行予定の河北ウイークリーせんだい「仙台初売り特別号」でご確認ください。

